

FY 2021 Final Report

Project Name: カンボジアの全ての子供たちのための学校保健サービス創生事業—教員養成大学・学校保健コースの創設支援と小・中学校への学校保健活動の普及協力—

Organization Name: 国立大学法人東京学芸大学

2021 年度のプロジェクトの活動レポート

要約

2021 年度は、カンボジア教育省と国立大学法人東京学芸大学（以下「東京学芸大学」）の間で締結した MoU に基づき、小学校課程の総合学校保健科目 2 単位の教科書の英語版（書籍と DVD）の完成とクメール語版の暫定版（2 分冊）の作成に取り組んだ。英語版は完成し、クメール語版は、前半の 1 分冊を作成し、プノンペンとバットアンバンの TEC に学生分を含めて各 160 冊配布した。

日本語版・英語翻訳版の教科書の内容に基づき学校保健を担当する教官のトレーニングを 4 回オンラインで実施した。トレーニングの方式を日本人教授が翻訳者を通して教官に講義をする形式から、まず選抜したマスタートレーナーにトレーニングを行い、その後の全体トレーニングではマスタートレーナーがクメール語で残りの教官に講義をする方式に変更した。

また、トレーニングによる教官の認識の変化を把握するために、トレーニング後のアンケートとインタビュー調査を行った。さらに、学校保健の授業による学生の行動変容を測定するために、質問紙調査票の開発を行った。

中学校課程学校保健コースについては、専門科目（30 単位）とカリキュラムスタディーズ（7 単位）の科目構成案に基づきシラバス（英語版）の作成を行った。シラバスは PTEC の担当副学長により検討中である。

KIZUNA が取り組んでいる中学生用の学校保健アニメーション教材、紙芝居教材の作成に、専門的立場から協力した。2021 年度に作成したトピックは、目と歯の健康、健康な生活行動②食と健康、感染症、衛生、子供の発育発達、思春期のからだの変化、メンタルヘルス、エコヘルスの 8 つである。

プロジェクトの広報活動として、ニュースレターの発行を行っているが、2021 年度は 2 号、3 号、4 号を発行した。

2022 年の主な課題を挙げると、クメール語版の後半 1 分冊を作成し、配布すること。テキストの改善点、教官と学生による学校保健の授業の評価と反省を聞き取ること。これらをもとに、暫定版テキストの改訂を行い、教育省の認可を得たテキストを印刷し、配布する。教官のトレーニングでは、7 回目、8 回目のトレーニングを実施すること、TEC の授業を観察し授業研究を行うこと、マスタートレーナーには日本研修を実施することである。

さらに、PTEC と BTEC の学生の保健行動調査の実施と分析を行い、学校保健の授業の効果を評価すること。小学校課程のテキストを基にした学校保健用語解説書、中学校課程学校保健コースの 1 年次の教科書作りに取り掛かることである。

I. 本事業実施の背景と経緯

これまでカンボジアの小学校、中学校では保健を教科として教えられておらず、学校における包括的な保健教育の実施が課題であった。そこで、小学校、中学校で保健教科を週1回教えることが定められた。同時にプノンペンとバットアンバンの教員養成校が4年制の教員養成大学に改革されるにあたり、小学校課程に総合学校保健科目（学校保健）を開設し、中学校課程では学校保健コースが新設されることになった。

教育省は、小学校、中学校で保健教科を教える教員を現職教員研修で育成しようとしているが、教員養成大学では、学校保健を指導できる人材が不在であり、学校保健担当教官を育成する課題は残されていた。学校保健のカリキュラム、シラバス、及び講義に使用する教科書もできていなかった。

そこで、本プロジェクトは、小学校課程の教員養成で用いるクメール語版の学校保健の教科書を作成し、2022年4月20日より授業が開始できるように、教官に教科書の内容に即したトレーニングを行ってきた。

中学校課程の学校保健コース設立に対しては、専門教科30科目、カリキュラムスタディ7科目からなるカリキュラムとそれぞれのシラバスを作成し、教科書の作成に向けて準備をしてきた。本プロジェクトが提案するシラバスが承認されれば、教員養成大学と教育省で入学定員や募集時期などが協議されることになっている。

II. 本事業の目的

本事業の目的は、プノンペン教員養成大学（PTEC）とバットアンバン教員養成大学（BTEC）において小学校と中学校の教員養成課程における学校保健のカリキュラム、シラバス、教科書を開発し、それらを用いて授業等を実施できる教官の養成・訓練を行うことである。また、用語の統一を図るため、学校保健に関するクメール語版の専門用語の解説を行う用語集を作成することである。

さらに、現在小中学校で働いている現職教員に学校保健の研修を行う必要があるため、日本財団の奨学生 alumni を核とし、KIZUNA と協力して現職教員を対象とした学校保健研修の普及と保健室のモデル事業に取り組むことである。

III. 事業概要

日本財団の助成による「カンボジアの全ての子供たちのための学校保健サービス創生事業」は、東京学芸大学がカンボジア教育省との協定に基づき、教員養成大学（PTEC と BTEC）の小学校課程の総合学校保健科目（学校保健）の開設と中学校課程学校保健コースの設立を支援するために、カリキュラム、シラバス、教科書の作成、講義を担当する教官のトレーニングを実施するプロジェクトである。そのプロジェクトの一環として、用語の統一を図るため、学校保健に関するクメール語版の専門用語の解説を行う用語集を作成する。

また、現在小中学校で働いている日本財団の奨学生 alumni を核とし、KIZUNA と協力して現職教員に学校保健研修の普及と保健室のモデル事業に取り組む。

IV. 2021年の事業目標

2021年の開始時に立てた事業の主要な目標は、以下の6点である。

- ①小学校課程4年生用の総合学校保健科目のシラバス、教科書（英語版、クメール語版）を作成し、

配布する。

- ②小学校課程の教科書を基にプノンペンとバットンバンの教員養成大学の学校保健担当教官を対象に、現地あるいはリモートでトレーニングを行う。渡航が可能となれば、教官候補者を対象に2週間程度の東京学芸大学等における学校保健研修を実施する。
- ③中学校課程の学校保健コースの専門科目30科目とCurriculum studies7単位分のカリキュラム、シラバス、教科書については、まず1年生の専門科目前期分6科目について案を作成する。
- ④KIZUNAに協力して、現職教員用の学校保健の教材を開発してalumniに学校保健の研修を行う。
- ⑤教官トレーニングや教材開発、保健室経営のガイドライン作成に関して、他大学のプロジェクト支援教員、東京学芸大学教職大学院の大学院生と養護教育専攻の学部学生が協働で支援する。
- ⑥主にカンボジア国内の健康関連の情報や研究に関する情報発信を行うための媒体として、2ヶ月に1回程度の頻度で英語とクメール語によるニュースレターを発行する。

V. 2021年の活動実施内容

2021年度の活動の柱は、事業目標に示した6点である。

1. 小学校課程4年生用の総合学校保健科目の教科書作成

総合学校保健科目の30時間分(2単位)のシラバスを作成し、TECに配布した(資料1、2)。小学校課程の講義用の教科書は、英語翻訳を完成させて、クメール語版の翻訳に回した。

英語版教科書作成のために、11月に東京書籍へ原稿を入稿し、3月末に書籍版とDVD版を完成させた(一部サンプルを資料3に示した)。

クメール語版の書籍版教科書は、カンボジアオフィスで、クメール語翻訳業者に依頼して、仮翻訳を行い、その後TECの教官に専門用語のチェックを行ってもらった。最終的に、カンボジアオフィスのスタッフらで用語の統一を図り、順次原稿を完成させていった。専門用語の確認など翻訳確定作業に時間がかかり、2021年度では前半部分の章の暫定版を作成するにとどまった(表紙と裏表紙は資料4、本文の一部サンプルを資料5に示した)。後半部分は、2022年の6月以降に間に合うように編集作業を行っている。

なお、教科書のクメール語の専門用語に関するチェックは、PTEC、BTECの教官に協力してもらい、大いに助けられた。2022年度以降も、教官の協力が必要である。

2. 教員養成大学の学校保健担当教官を対象にしたトレーニングの実施

2021年度は、学校保健担当教官のうちマスタートレーナーを選定し、トレーニング前にマスタートレーナーに対するトレーニングを行い、全体のトレーニングの際には彼らが講師となって残りのトレーニングを行った。カスケード方式のトレーニングである。なお、PTECが2名の教官を学校保健担当者として採用したため、本プロジェクトに参加している教官は、2021年1月に18名となった。マスタートレーナーには、その2名を加えて、PTEC6名、BTEC2名を任命した。

トレーニングは、すべてオンラインにより、2021年には第4回を6月28日、29日に「人体の構造と機能」と「身の回りの衛生と清潔」を実施(資料6)、第5回を9月16日、17日に「感染症の予防」と「生活習慣病の予防」を実施(資料7)した。第6回は2022年2月7日から9日にかけて「薬物使用と健康影響」と「メンタルヘルス」を実施した(資料8)。第6回は、カンボジアでは

コロナウイルスの感染が治まってきたため、HIMAWARI ホテルで PTEC と BTEC の教官が一堂に会することができた（資料 9）。日本の教員は、国内の感染症が治まらず、カンボジアに渡航できなかったため、オンラインで参加した。

トレーナーの日本研修は、日本の感染状況が改善せず、入国制限がかかっていたため、2021 年度の実施は断念した。

3. 中学校課程の学校保健コースのカリキュラム、シラバス作成

専門科目 30 科目と学校保健教育法 7 単位分のカリキュラムとシラバスを作成し、PTEC に提出した。

このコースの専門教科の構造は、エコヘルスの理念に基づく保健学の学修を通して、人々が健康に生きることができる平和で公正なカンボジア社会の構築に貢献する学校保健人材の育成を意図して設定した。

科目の領域は、1. Physical health、2. Public health and school health、3. Sexual and reproductive health、4. Child health、5. Adolescent health and mental health、6. Health education and health promotion、7. Ecological health and global health、8. Safety education、9. First aid at school、10. Inclusive education、11. Field study and research methods の 11 領域で構成した。

授業科目の年次進行の構成は、1 年の前期は 6 科目（6 単位）で Human anatomy and physiology 1、School health 1、Sexual health & sexual education 1、Health Science 1 などである（資料 10）。

後期も 6 科目（6 単位）で General topics in health and nutrition、Hygiene & public health 1、Childhood illness などである。2 年次の前期の専門科目は 4 科目（4 単位）で、Mind, body & society in adolescence 1、First aid at school などの専門教科に Curriculum study1 が加わる。後期も同じく 4 科目（4 単位）で Mental health & illness、Health education 1 などの専門科目に Curriculum study 2 が加わる。

おおよそ 2 年生までに Physical health、Public health and school health、Sexual health、Child health、Adolescent health and mental health、Health education and life skill education、First aid at school の基礎的な 7 領域を学修する。

3 年次の前期は、専門科目 3 科目（3 単位）で Environment health and ecohealth 1、Disaster prevention education などに加えて Curriculum study 3 を行う。後期は、専門科目 2 科目（2 単位）で Environment health and ecohealth 2、Methodology of health research に加え、Curriculum study 4 を実施する。最終学年の 4 年次の前期は、Global health and applied health sciences、Special needs education、Field study 1 の専門科目 3 科目（3 単位）と Curriculum study5 で構成した。後期は、Peace building and health、Field study 2: graduation research project と Curriculum study6、Curriculum study7 の科目について授業を行う。

3 年次以降になり、残りの専門的な領域である Ecological health and global health、Safety education、Inclusive education、Field study and research methods を学修する。

シラバスは、専門科目 1 科目（Child Health、資料 11）と Curriculum study 1（資料 12）をサンプルとして資料に示した。すべてのシラバスは、

<https://drive.google.com/drive/folders/1NzSgI4zVrNq0F4i5HbyWp8DZkOu1ex0A> に保存してある。

シラバスをもとに教科書の執筆に取り掛かる予定であったが、小学校課程の日本語原稿から英語版教科書を作成するのに時間がかかったこと、専門科目 30 科目及びカリキュラム・スタディーズ 7 科目の英語版シラバスを作成するのに時間がかかったことにより、PTEC に提出する時期が年度末になってしまった。したがって、PTEC 側の確認作業が 2022 年度になったため、2021 年度中には教科書作成に手を付けることができなかった。

さらに、最終的に学校保健局にシラバスを提出して、TEC で学校保健コースを設置する許可が下りなければ、学生募集もできないので、予定した通りのスケジュールでは進められず、スケジュールの再調整が必要である。

4. KIZUNA に協力した現職教員用の学校保健教材の開発

KIZUNA はコックン州のモデル校に保健教育、保健室サービスの導入を試みている。本プロジェクトメンバーは、中等学校 7 年生から 9 年生用の紙芝居とアニメーションによる学校保健の教材づくりに専門的観点から協力を行った。今年度は、「目と歯の健康」「健康な生活行動②食と健康」「感染症」「子供の発育発達」「思春期の身体の変化」「メンタルヘルス」「エコヘルス」の教材化に協力した。

保健室サービスの運営に関するガイドライン作成は、何度か会議を持ち、ガイドラインの構成案を作成した。しかし、モデル校の中には、独立した保健室を設けられる教室がないところもあり、日本とは異なった「保健室」の定義を行い、それに基づいたガイドラインの作成が必要であることを認識し、ガイドラインの作成は 2022 年度に持ち越した。

5. 他大学教員のプロジェクト参加、学生・院生の活動

小学校課程のテキストの作成を専門的にサポートしてくれた他大学の教員は、次のとおりである。茨城大学青柳直子教授、十文字大学中村貞子教授、埼玉大学齋藤千景准教授、横浜国立大学教授物部博文教授である。中学校課程のテキスト関係では、この 4 名に加えて、東海大学籠谷恵講師にも協力を得た。

東京学芸大学養護教育専攻の学部学生では、3 年生 1 名、2 年生 2 名、1 年生 6 名がカンボジア学校保健プロジェクトに参加して活動をしており、トレーニング時の課題であったポスター作製、小学校課程の日本語テキストの草案に対する学生の立場からのコメント、さらにテキストの理解度を評価するためのテスト問題の作成などを行った。

理解度テストの問題作成は、16 章のうち半分で終わり、カンボジアオフィスでクメール語に翻訳をした。残りの章の問題作成は、2022 年度に引き続き学生の活動として行う。

6. ニュースレターの発行

2021 年度には第 2 号（資料 13）、第 3 号（資料 14）、第 4 号（資料 15）のニュースレターを発行した。各号は、トレーニング終了後に発行している。

7. その他

プロジェクトに参加している日本側の教員と学生が、カンボジア事情、国際保健などへの知見を深めるために、ゲストスピーカーを招いて勉強会を行った。勉強会の日程・ゲストスピーカ

ー・内容については以下の通りである（カンボジア勉強会：

https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1hU6mZQR9ZzQzolcUKC_K2NpgTc_c4RSL）。

日程	ゲストスピーカー	内容
2021年 11月11日	カンボジアオフィス プロジェクトコーディネーター 増子 夕夏	カンボジア基礎情報 カンボジアの歴史・文化・教育（教員養成制度や教育課題）等
12月2日	信州大学大学院 上野 真理恵	青年海外協力隊（学校保健隊員）として取り組んだガーナにおける学校保健活動
12月16日	認定NPO法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン カンボジア事務所長 石山 加奈子	ピープルズ・ホープ・ジャパンの現地での活動（カンボジアでの母子保健に関する事業）
2022年 1月18日	認定NPO法人 難民を助ける会 AAR Japan カンボジア駐在員 向井 郷美	難民を助ける会 AAR Japan の現地での活動（カンボジアでの障がい者支援に関する事業）
1月28日	特定非営利活動法人 ラオスのこども 東京事務局 伊藤 珠希	ラオスの教育の現状・ラオスのこどもの現地での活動（読書推進支援、文化センター設立・運営支援に関する事業）
2月2日	東京学芸大学附属国際中等教育学校 学校司書 渡邊 有理子	ゲストスピーカーが以前 NGO 駐在員として携わったタイ・ミャンマー国境の難民キャンプでの図書館支援に関する事業

VI. 2021年のカンボジアオフィスの業務内容

カンボジアオフィスでは、Vの活動1から7のカンボジア現地に関する部分のすべてを担当した。具体的には以下のとおりである。

1. 小学校課程4年生用の総合学校保健科目の教科書作成

英語の原稿を翻訳業社に依頼してクメール語にした後、TECの教官並びに教育省学校保健局に校正を依頼したのち、外部の校正担当者3名による校正を経てカンボジアオフィススタッフでファイナライズし、レイアウトを完成させた。作業は上下巻で2回に分けて行った。印刷業社に通い密にチェックしたのちに暫定版の教科書として、TECに配布した。

2. 教員養成大学の学校保健担当教官を対象にしたトレーニングの実施

トレーニングに関しての、日程調整、TECとの連携、学校保健局との連携、会場の選定から会場との折衝、資料や通訳の手配準備、当日の運営を行った。トレーニング後は教官たちの知識定着に寄与するため、東京学芸大学の学生チームと連携して理解度確認テストを実施している。また、トレーニングの約1ヶ月間にMaster Trainer Trainingをオンラインで実施し、トレーニング当日のLecture担当者の育成を行なっているが、その準備や運営を担当している。

3. 中学校課程の学校保健コースのカリキュラム、シラバス作成

カリキュラムやシラバスのドラフトを印刷して TEC の担当者に渡し、現在、英語版への TEC の加筆修正を待っているところである。2022 年 7 月 4 日に、カリキュラムとシラバスについての PTEC C 並びに SHCC プロジェクトチームとの会議を予定している。

4. KIZUNA に協力した現職教員用の学校保健教材の開発

保健教材の開発に関して、PTEC の教官 2 名 (Ms. Chhom Kunthy, Mr. Seng Sihak) と連携して、KIZUNA の ecohealth ワークショップ等に参加している (オンライン、オフラインともに)。また、TEC の教官や学生が保健教材を活用できる可能性を探るため、学校保健トレーニングにおいて KIZUNA の保健教材の紹介等を行なった。

5. 他大学教員のプロジェクト参加、学生・院生の活動

トレーニング後の理解度確認テスト作成と実施において、東京学芸大学の学生と連携して運営している。

6. ニュースレターの発行

ニュースレターの現地担当分の原稿作成 (英語) の他、すべての原稿のクメール語翻訳を行なっている。発行後は、各 TEC、学校保健局等にテレグラム等を通じて送付している。また、広報ツールとして活用している Facebook ページにも掲載し、誰でもアクセスできる環境にしている。

7. その他

- ・カンボジア勉強会の現地からの講師の手配を行なっている。
- ・カンボジアオフィスとしては、今後プロジェクトにおいて連携できる可能性のある NGO や機関等との交流や情報収集に努めている。
- ・日本からの出張者があった場合、現地での宿泊や交通、訪問先とのアポイント等のアテンド業務を行なっている。
- ・SHCC プロジェクトの学校保健教官全 18 名にインタビューを行い、今後のトレーニングやプロジェクト改善に向けてのレポートを作成中である (2022 年 7 月完成予定)。

VII. 2021 年の主な活動の総括

小学校課程の学校保健の教科書の作成は、英語版は予定通り完成したが、クメール語版は翻訳語のチェックに予想以上に時間がかかり、前半部分のみの完成となった。予定より遅れている。

中学校課程のカリキュラム、シラバス、教科書作成では、カリキュラムとシラバスは英文で作成し、PTEC のチェックを受けている。シラバス作成に時間を要し、PTEC への提出が遅れたため、チェックは未了である。そのため、予定していた教科書作成には取り掛かれなかった。

学校保健担当教官のトレーニングは、コロナウイルスの感染拡大のため、オンラインで 3 回実施した。教科書の全章のトレーニングを終了させる予定であったが、5 章分のトレーニング (2 回分) を残してしまった。TEC の教官は、国内で様々な研修に参加しており、時間調整が難しかったのが一つの理由である。トレーニングの成果では、オンラインでも活発に参加している様子がうかがえたが、教官同士の相互交流やグループワークが十分できず、教官からやや消化不良の感が伝わってきた。

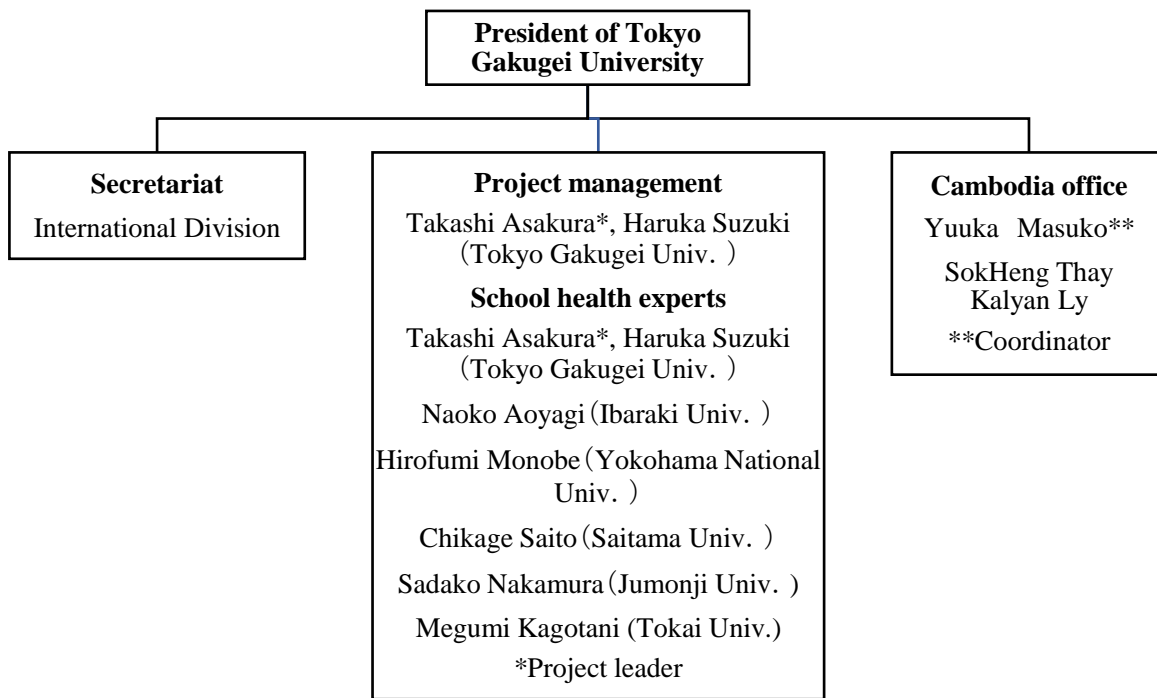
VIII. 2022 年度事業の主な計画

- ①クメール語版の暫定版を改訂し、最終版を作成し教育省の承認を得て発行すること、

- ②学校保健用語解説の作成に取り掛かること、
- ③中学校課程のシラバスを完成させ、学校保健局にコース新設の要望を TEC と共に提出すること、
- ④中学校課程 1 年次に予定している科目の講義概要（教科書に相当）の作成に取り掛かること、
- ⑤教官トレーニングを継続し、マスタートレーナーの日本研修を実現させること、
- ⑥KIZUNA の現職の学校保健研修事業に協力し、とくに保健室サービスの運営ガイドラインを作成すること、
- ⑦教官へのインタビュー、学生への質問紙調査を通して、プロジェクト評価、学校保健の授業評価を実施すること、
- ⑧教育省との MoU の更新、新たにプノンペンとバタンバンの TEC と MoU を締結し、教育と研究、交流に関する連携を深めていくこと、
- ⑨プロジェクトに参加する学生の活動、カンボジア事情や国際学校保健に関する勉強会、ニューズレターの発行などの広報活動、カンボジアオフィスを中心にした TEC や教育省との連携は、充実させて継続すること、である。

IX. プロジェクトの組織図

2021 年度の事業を実施したプロジェクトメンバーの組織図である。



X. プロジェクトの決算報告

別紙収支簿（資料 16）のとおり。